

2019年度（令和元年度）

明治薬科大学ファカルティ・ディベロップメント活動報告書

明治薬科大学 FD 委員会

目次

1. はじめに
2. 2019 年度 新任教員 講義ビデオ閲覧による自己評価
3. 2019 年度 FD・SD 研修会
4. 学生による授業アンケートで評価の高い教員の選出
5. 新任教員講義ビデオ閲覧によるピアレビュー(全教員対象)
6. 2019 年度シラバス研修会

はじめに

昨年までFD活動に尽力頂きました石橋 FD委員長の定年退職に伴い、新たに明治薬科大学FD委員会委員長として拝命させていただきました中館です。これまで多くのFD活動により本学では格段のレベルアップを果たしてきました。現在のFD委員の先生方とともにさらなる改善を目指していきたいと思っております。

これまで明治薬科大学では、教育内容・方法の改善を目的としたFD活動の一環として、学生による授業アンケート評価、教員による相互評価(ピアレビュー)および教育方法改善のための講演会を継続して実施しております。今年度は、昨年度と同様にCbox(講義収録/動画コンテンツ作成システム)およびMY-CAST(moodle)を利用し、講義収録ビデオを用いた自己評価を新任教員を主な対象として実施し、さらに、この収録ビデオ閲覧による同僚評価(ピアレビュー)を全教員を対象として実施いたしました。また、今年度も学生による授業アンケートで高評価の教員による模範講義を教員向けにビデオ配信を行いました。

今年度のFD研修会については、SD研修会との合同企画で、清瀬市消防署予防課の平野修弘先生に救急搬送における対応と薬剤師が担う役割についてご講演いただきました。

さらに、本年度も教員を対象としたシラバス研修会も実施しました。

本報告書では、2019年度に実施した学部FD活動について報告させて頂きます。本報告書が今後のFD活動のさらなる充実・発展の一助となれば幸いです。最後に、2019年度の本学のFD活動にご理解をいただき、また、さまざまな実施活動にご協力ご参加いただいた教職員の皆様方に心より感謝申し上げます。

2020年4月

2019年度 明治薬科大学FD委員会
委員長 中館 和彦

2019 年度 新任教員 講義ビデオ閲覧による自己評価

2019 年度 FD 活動の一環として授業収録ビデオによる自己評価を新任教員 3 名を対象に実施した。

期間：2019 年 11 月 16 日（土）～12 月 16 日（月）

手順：授業収録ビデオを各自閲覧して、MY-CAST（下記 URL）のアンケート設問に回答する。

<http://my-cast.my-pharm.ac.jp/moodle2019/mod/feedback/view.php?id=8916>

評価項目

自分が思っていたイメージとビデオで振り返った講義との違いについて、各項目に該当する番号をマークして下さい。

評価項目

1. 聞き取りやすさ（声の大きさやスピード）

- (1) 思ったより聞き取り易い
- (2) イメージどおり
- (3) やや聞き取りにくい
- (4) 思ったより聞き取りにくい

2. 話の展開・進行の早さ

- (1) 思ったより早い
- (2) やや早い
- (3) イメージどおり
- (4) やや遅い
- (5) 思ったより遅い

3. 講義内容のわかり易さ

- (1) 思ったより難しい
- (2) やや難しい
- (3) イメージどおり
- (4) やや易しい
- (5) 思ったより易しい

4. アイコンタクトや問い合わせなどによる学生理解度の確認

- (1) 思った以上に行っている
 - (2) イメージどおり行っている
 - (3) あまり行っていない
 - (4) ほとんど行っていない
-

自身の講義をビデオで振り返り、以下の項目について御記入ください。

1. 話し方の癖、歩き方、姿勢、学習者に与える印象などで自身が気づいたこと

2. 振り返りで気づいた自分の長所・短所

3. 今後、講義の際に気をつけようと思うこと

FD 委員会から担当教員へのアンケート

1. 今回のビデオによる自己評価は授業改善に役立ちますか。

はい いいえ どちらともいえない

2. その理由

講義収録コンテンツによる授業評価(集計結果)

1. 聞き取りやすさ(声の大きさやスピード)

思ったより聞き取り易い: 0

イメージ通り:  2 (66.67 %)

やや聞き取りにくい:  1 (33.33 %)

思ったより聞き取りにくい: 0

2. 話の展開・進行の早さ

思ったより早い: 0

やや早い:  1 (33.33 %)

イメージ通り:  2 (66.67 %)

やや遅い: 0

思ったより遅い: 0

3. 講義内容のわかり易さ

思ったより難しい: 0

やや難しい: 0

イメージどおり:  3 (100.00 %)

やや易しい: 0

思ったより易しい: 0

4. アイコンタクトや問い合わせによる学生理解度の確認

思った以上に行っている: 0

イメージ通り行っている: 0

あまり行っていない:  2 (66.67 %)

ほとんど行っていない:  1 (33.33 %)

5. 話し方の癖、歩き方、姿勢、学習者に与える印象などで自身が気づいたこと

独特的の発音の癖があるようです。ハッキリ聞きやすくて話しているとは思いますが、もう少し聞きやすい発音だとよいと思いました。

話しているときに「えー」とか「～ね」と言った言葉があるので、注意したほうが良いと思った。

もう少し、学生に問いかけてもよかったですかなと感じている。

学生への情報の伝達という意味で大きな過不足を感じないが、全体に単調であることから学生の集中力の持続に配慮した構成を考える必要を感じた。

6. 今後、講義の際に気をつけようと思うこと

学生に問いかけて反応を求めていたのですが、学生からは不評であったので、最近はあまり問いかけたりしないようにしていました。これをみるともう少し問いかけなどあった方が良いように感じました。今後、もう少し学生の方を見て話すように気をつけたいと思います。

しっかり説明するべきところは、十分な言葉で説明したほうが良いと思った。

双方向性を如何に取り入れるかは課題である。

講義の適切なスピードを検討したい。

7. これまでに自己評価をしたことがある場合、今年度工夫したことや改善したこと、または新たな課題などを記入して下さい。

やや専門的な内容に踏み込んだ解説を試みた。

8. その理由

自分の講義を客観的に見れたことは、改善に役立つと思います。

自分があまり気にしていない部分が、客観的に見ることで浮き彫りになった。

講義を客観視する機会となった。

9. 今回のビデオによる自己評価は授業改善に役立ちますか？

は
い:

3 (100.00 %)

いいえ: 0

どちらともいえない: 0

2019 年度 FD・SD 研修会

役員、教職員 各位

学長 石井啓太郎
FD委員長 中館和彦

令和元年度 FD・SD研修会について

標記について、本年度は、FDとSDの研修会を下記により 実施いたします。

つきましては、役員・教員は原則として全員、事務職員は各部署の留守番を除き、ご出席くださいるよう、お願ひいたします。

記

1. 日 時 令和元年9月3日（火）
10：00～11：30
2. 場 所 研修・図書・厚生棟3階 多目的大講義室
3. 講 師 清瀬消防署予防課
平野 修弘氏

※ 詳細は添付ファイルをご参照ください。

- ◆FD・SDは研修が義務付けられています。
- ◆当日欠席される方は、総務課に申し出てください。
- ◆欠席者は後日、収録ビデオを閲覧のうえコメントをお願いします。

講演資料

**明治薬科大学FD・SD研修
自衛消防訓練**



令和元年9月3日
清瀬消防署 予防課 自衛消防担当



10:00~10:30
清瀬消防署からのお知らせ
消火、通報要領の確認(座学)

10:30~10:40
休憩・会場準備

10:40~11:30
応急救護訓練(実技)



1 清瀬消防署の紹介

- 職員数は130人
- 本署と竹丘出張所の担当区域の境界は西武池袋線の線路



2 火災の現況（平成30年）

- ▶ 火災件数: 3,973件(うち清瀬市は26件)
- ▶ 火災による死者: 86名(うち清瀬市は1名)
- ▶ 火災による傷者: 798名(うち清瀬市は3名)

※数値は速報値です



3 出火原因の内訳（平成30年）

主な出火原因（上位10位）
※平成30年の数値は速報値です。



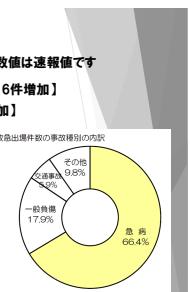
出火原因1位から3位の「放火・疑い」「たばこ」「ガス」の順位は変わりませんが、「放火・疑い」は特に頭著に減少しました。



4 救急の現況（平成30年）

※数値は速報値です

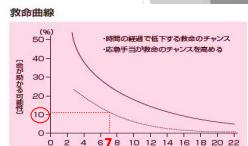
- ▶ 出場件数（東京消防庁管内）: 818,100件【32,916件増加】
- ▶ 出場件数（清瀬市内）: 4,405件【180件増加】
- 救急業務を開始した昭和11年以来、初めて80万件を超え過去最多を記録しました。
- 救急隊出動頻度 39秒に1回
- 清瀬市内は1日12~1件の救急要請
- 通報時等に重症と思われる場合や救急隊のみでは対応が困難な場合、救急隊が遅延する場合等は、ポンプ隊（消防車）も出場します。



5 救急車の現場到着時間



出発から到着まで
7分02秒



(G点に呼吸が止まるまでの時間経過)
■ 床に倒された人が他の人に見つかった場合
■ 救急車が来まるまで何でもしなかった場合

6 東京消防庁救急相談センター

- ・体の具合が悪そうだ。救急車を呼んだ方がいいのかな？
- ・今すぐ病院にいったほうがいいのかな？

- #7119に相談してください。
(救急相談センター)

医師・看護師・救急隊経験者等が
24時間年中無休で対応しています。

- 東京版救急受信ガイドを
利用してください。



7 自衛消防訓練の実施

小学校、中学校、高校、大学などの各種学校は、消防法第8条に基づき、
年1回以上、消火、通報及び避難の訓練を実施する必要があります。



大学が自ら実施する訓練

or



消防機員立会いによる訓練
消防機員の立会いを希望される場合には、
日程や実施内容について調整が必要なため、
早めに清瀬消防署までお問い合わせください。



8 消火器の正しい使い方



初期消火のポイント

- 吸き返しや燃焼物が飛び散ることがあるので、
火点に近づき過ぎず、適切な距離を保ちましょう。
- 退避路を確保し、「出火室内が燃え広がっている場合」や
「天井等に火炎が達した場合」は、無理せずに避難を開始しましょう。
- 「ぬらした衣類等をかける」などではなく、
適切な消火器具、消火設備を努めて使用しましょう。

9 消火器の正しい使い方



初期消火のポイント

・薬剤はリン酸アンモニウムなど
・粉末による窒息消火

・薬剤は炭酸カリウムなど
・強化液による冷却消火、
窒息消火

- 粉末消火器による消火は、水のように浸透力がないので、燃焼物の深奥部まで完全に消火することはできません。
(※ 更に強化液消火器を使用し、完全に消してください。)
- 一度使用した消火器は再度使用せず、薬剤を替えるか、
新しいものと交換してください。

10 119番通報の要領

	現在の聴取要領	過去の聴取要領
消防職員	東京消防庁です。火事ですか、救急ですか。	火事ですか。
通報者	火事(救急)です。	火事(救急)です。
消防職員	消防車(救急車)が向かう住所を教えてください。	そこは何市何町何丁目何番何号ですか。
通報者	清瀬市野塩2-522-1 明治薬科大学(●●教室)です。	例: ●●●号室の●●です。●●が倒れ、意識がありません。」「救急の場合は、この後、通報者の名前と電話番号を確認します。」
消防職員	何か燃えてますか。(どうしましたか。)	
通報者	例: (●●●号室の●●です。●●が倒れ、意識がありません。) 「救急の場合は、この後、通報者の名前と電話番号を確認します。」	

落ち着いて、迅速な119番通報が大切

11 家具の転倒・落下・移動防止対策

地震による負傷者の30~50%は、家具類の転倒・落下・移動が原因です。



平成30年6月18日に発生した、大阪府北部を震源とする地震、9月6日に発生した北海道胆振東部地震でも、家具類の転倒等により死者、けが人がでています。

首都直下地震は、30年以内に70%の確率で発生すると言われています。

12 防炎物品の使用

消防法第8条の3第1項に定める建築物(飲食店、物品販売店舗、ホテル、病院、高層建築物(高さ31mを超える))は…

カーテン・布製ブラインド・じゅうたん等を
防炎物品にする必要があります



問い合わせ先

東京消防庁 清瀬消防署 予防課

自衛消防担当

電話 042-491-0119 内線(610)



意見

今回の研修会について。ご意見ご感想をお聞かせ下さい。

- 今回、台風19号により、避難困難者（老人）がいるため近所の小学校に避難し、普段の防災の大切さを改めて感じた次第です。ビデオで視聴したSDでは、丁寧にわかりやすく解説されており、特に救急と消防の連絡の違いなどがよくわかりました。
- 今回はFD・SD研修会に参加することができなかったため、ビデオを見させていただきました。 今回は消防・救急というテーマでしたが、医療人であるか、ないかにかかわらず、こういうケースに立ち会うことがあると思います。 そういう場合に、すべきことを知っているか、できるかということが重要になってくると感じました。
- 私は今までこういうケースに立ち会ったことはありませんが、昨年・一昨年の消防訓練にて消火器の使い方やAEDの使い方を実演させていただきました。 ただ落下防止策については、研究室では対策している部分もありましたが、自宅では対策を全く行っていないため、早急に対応しなければならないと感じました。
- 実習（解剖）中に貧血で倒れる学生がいます。幸い、AEDを必要としたことはありません。教員、TAなど多くの目で見守ることが重要です。
- 市民大学講座でも体調を崩す方を経験しています。幸い救急車を呼ぶようなことはありませんが、学外で倒られた方の連絡を受け、救急車を呼んだ経験があります。参加制限することも必要で、高齢者をお断りしたり、暑い時期には中止するようにしてから、問題は起きていません。防災も含め、事故に対する適切な対処が必要なことはもちろん、事故を起こさないような配慮も必要です。
- 私は、運動部の顧問を受けていることから救命救急に関する講習会を何度か受けています。幸いにも私自身は、大学の活動の中では、このようなことは未だにありませんが、スキルを維持するためにもこのような講習は大事だと考えております。2年に1度は、救命救急講習会を行なって頂けると実践の場でも役立つときがあると思います。
- 火災、救急の時の対応を改めて確認することができた。消火器の圧力計については知らなかった。研究室にあるものは新しいものであることを確認した。
- 救急時の対応について具体的なイメージを持って学ぶことが出来て良かったです。
- 救急車が到着するまでの7-8分で、AEDを使い、心臓マッサージを優先して行うこと等が重要なことを学びました。
- いざというときに心を強く持ち実行したいと思います。
- 救命救急が必要な事態に遭遇したとき 「あまりかかりたくない」「誰かがやってくれるだろう」ではなく、自ら積極的に周囲の人を巻き込んで救命救急にあたらなければならぬことを再確認しました。
- 定期的にこのような実践を含む研修を受けることで、いざこのような場面に遭遇した場合、落ち着いて対応ができるようになると思います。
- ちょっと学んだぐらいでは、落ち着いて行動がとれるか不安ですが、とにかく心臓マッサージをやり続けることが重要であることが再確認できた。
- 実施に意識のない人に、心臓マッサージをするとなると、どうしたらいいのか、右往左往してしまうので、こういった場で見ておくだけでも違うと思う。
- 消防隊員の方々の存在は、本当にありがたい。
- 講演であった実際の火事現場の写真には、恐怖を感じたので日常生活の中での火の取り扱いは、やはり十分に気を付けたい。また、研究室での実験等で火事が起り得ることもあるので、初期消火の必要性も改めて感じた。

- 清瀬市全体で救急車が1台しかないというのは意外だった。
- 消火器やAEDの使用法は例年消防訓練でも聞いているが、忘れている部分もあったので定期的に講習を行うことが重要だと感じた。
- 119番通報の質疑応答は簡潔に行うこと、救命措置の重要性（何もしない場合よりも措置を講じたほうが7分時点の救命率で10%以上高くなること、救急車を呼ぶか迷った時の相談先など、勉強になりました）
- 次の実践編では、倒れている人を見つけた場合、応援を呼ぶ、人工呼吸よりも心臓マッサージを優先、手を伸ばして体全体で強く押す感じ（肋骨が折れるかもしれないくらいがそれを恐れすぎない）で行うこと、AEDは基本的に機械の指示に従って対応することなど勉強になりました。
- 今年度は、危機管理に係る研修会ということで、清瀬消防署講師による火災等の災害の実態及び各機関の自衛消防の役割、実践等の講演を受講し、本学における必要な備えを改めて確認することができました。
- 実践編はAEDを用いた救命でしたが、本学に設置されている4つのAEDを認識するとともに、今後もAED知識の継続的な確認に努めていきたいと思いました。
- FD・SD研修の動画を視聴して救命救急の大切さを実感しました。AED公衆の機会があったら受講したいと思います。
- 火災発生時、パニックになってしまっては、的確かつ迅速に行動することは困難となります。日頃の訓練を通じて、知識と経験を身につけることこそが、自信につながり、いざという時に冷静さを保って行動するために大切だと思いました。また、心臓マッサージとAED使用方法の実習は、観ていて鬼気迫るものを感じました。今回の研修は、緊急時の対応の仕方を学ぶ上で、大変わかりやすく参考になりました。
- 以前薬局で働いていた時は人工呼吸と心臓マッサージを行うようにと教えられていたので、今回人工呼吸をしなくていいことには驚きました。こういった場面に立ち会ったことは幸運にもまだありませんが、もしそうなった時には微力でも協力できる勇気を持っていいたいと思います。
- 数年前に、消火・救命の訓練を受け、消火器の実践や、AEDのデモンストレーションにも参加したので、手順は知っていたが、いざというときに適切な対応をとるためには、知識として知っているだけでなく、定期的に復習を行うことが大切だと思った。
- 全体を通して簡潔な説明で、分かり易かった。
- AEDを使用するかどうかの判断は、その場に医療従事者等の専門家がいればよいが、そうでなければ、素人でもAEDの指示に従ってできる限りの対処をすることが大切なのではないか。なにもしないよりは救命の可能性が高まると思うので、細かい場合分けまで考えずに、とにかく心臓マッサージとAEDを躊躇なく実施できることが大切かと思った。そうであれば（医師・薬剤師資格を持つ教員が多くいる場であることで消防署の方にも遠慮があったかもしれないが、一般市民である職員も受ける講習なので）、その点を強調してご説明いただけたらよかったです。
- 少々残念だった点としては、動画視聴での受講に際し、講演の消火器のデモンストレーションがフレーム外で映っていないかったこと、AEDのデモンストレーション中に消防署の方がカメラと重なってしまった場面があったことなどがあった。
- 今後同様の講習を行うことがある場合には、あらかじめカメラ位置等をフォローしておいていただけだと尚良いのではないかと感じた。
- 学生にはadvanced life supportの教育をするんで教員にも今回のようなfirst aidでは不十分ではないか。

- 消防隊ではなくて救急医による講義・実習をするべきではないか。
- ビデオにとって学生にも学ばせるのがよい。
- 一般市民の講習ではFDの意味がないのではないか
- ぜひ次回は薬物治療も含めた講習をお願いしたい。
- 消防隊はテレビでは重宝されるが大学のFDには不十分では？薬学部が医療系という認識がないのでは？
- 心停止の病態と薬物治療も含めたセカンドステージ教育も追加してほしい（FDだけではなく事務系も含んでいるので今回はやむ得ないかもしない）
- 火災のレクチャーは材料科学の視点からのフォローアップがあるとよい（消化器の成分によるちがいなど）
- 大学でのメカニズムや疫学にせまる消防業務に参考になる講義によるフォローアップがなかったのがさみしい。少なくとも質疑応答のレベルが低すぎる。ペースメーカーのある場合の質問がうやむやに答えられているのはその限界を象徴している。
- 次回は救急医療における薬剤師の存在意義についてSGDをしてもらいたい。
- 救急車を呼ぶ呼ばないの判断のトリアージや電話番号（# 7 1 1 9）があるのは薬剤師として最低限、知っておかなければならぬと思いました。
- 救急車が来るまでの平均7分間にできることを知っておく必要があり、忘れないように訓練する必要があると思いました。
- 消火器を使った消火は水バケツよりも効果的ということであるが、初期の火災の程度により躊躇われて、火災の規模が大きくなってしまうこともあるかもしれません。（大ごとになるのを避けようとしてしまうのでは？）
- 消防署への電話対応は日本語のみであるように思われます。本学のように外国人ポスドクなどにも緊急時の対応法を教えておいたほうがいいと思いました。
- 数年前にAEDの講習を受けていたが、曖昧になっている点もあった。実際に救命活動をする必要があった場合に冷静に正しく対処できるように、数年に1度はこのような研修を受けることも大切であると思われた。以前は子供に対する説明もあったので、簡単にで良いで説明していただけると良かったと思います。
- 昨年、大きな公園で、卒倒した人の近くに居合わせました。幸い、看護師さんらしき方が適切に対応してくださいましたが、私を含め、周りの数人が一度に119通報をしてしまいました。今回の研修であったように、知らない人同士であっても、あなたお願いします、私電話します、などのような掛け声ができると混乱せずに済んだかもしれない、と思い返していました。
- AEDを使用するとなると、かなりの思い切りが必要になりますが、急な出来事に対処できるよう、防災訓練等で定期的に学んでおくことは大事だとおもいました。
- 消防への通報の内容や、心肺蘇生法など時代とともに変化していっていることが分かり、とても参考になりました。
- 薬局の設備点検、また患者対応に本日の内容を活かしたいと思います。

学生による授業アンケートで評価の高い教員の選出

本学では、毎年、全学的に「学生による授業評価アンケート」を実施しており、授業方法の改善と教育力の向上に役立てている。アンケートの回収率が75%以上の授業科目の総合評価及び学生の自由記述内容を参考に総合的な評価を行い、評価の高い教員と改善が必要と思われる教員を選出した。ただし、選択科目（外国語選択科目を除く）は履修者数が50名以上、外国語科目については40名以上の履修者数の科目を対象とした。

学生による授業評価アンケートで高評価を得た専任教員として、12名（専任教員5名、非常勤講師7名）の教員を選出した。学生ホールに教員名を公表するとともに、学長による表彰を行った。また、一定基準満たさない改善を要する教員が今年度1名いたことから、当該教員には口頭注意とともに改善計画書の提出を義務付け、次年度以降の講義改善を行うこととした。

2019 年度 新任教員講義ビデオ閲覧によるピアレビュー(全教員対象)

講義収録コンテンツによる自己評価で収録した教員の講義ビデオについて、同僚教員によるピアレビューを実施した。

期間：2019 年 12 月 17 日(火)～2020 年 3 月 7 日(土)

手順：自身の専門分野にとらわれず何れか関心のある講義ビデオを視聴したうえで、参考になったこと、気づいたことなどコメントを記入した。

<http://my-cast.my-pharm.ac.jp/moodle2019/course/view.php?id=954>

日時：2019/12/3 1限目

科目：臨床栄養学

意見・感想

- 薬剤師としては現場で非常に大事な内容となります。説明もしっかりと分かり易かったと思います。ただ、「難しいので覚えなくても良いです」と言う発言が多く見られましたが、これは言わなくても良いかと思います。重要な部分は「ここは覚えていてください」といえばいいのだと思います。本当は全部を覚えなくてはいけないことなので。
- 1年生で生理学、2年生で病態生理学を学んでいるので、分かっている部分もあるかと思います。薬に関しても3年後期には薬理学3まで終了しているので、かなりの部分は理解していると思います。ただ、学生なので、復習程度に説明を入れていかないとダメですけど。
- この内容が「選択科目」と言うのはもったいないと思います。病院だけではなくこれからは在宅医療が増えていく中、輸液は非常に大事で、薬剤師の知識が生かされる部分だと思います。できれば「必須科目」にしたいところです。ぜひ、輸液に関しては、どこかの必須科目で何コマか入れて欲しいと思います。
- 着任1年目で手探りの中にもかかわらず、スライドは、良くある情報過多でなく、見やすいように作成されていた。また、講義の内容もまとまっており、話のテンポも良く、聞き取りやすく、受講した学生は良く理解できたものと思います。
- 講義の中で学生と対話をしながら進める授業形態は、学生に程よい緊張感が生まれ、先生と一緒にした講義となるので、講義時間が許すならば、是非、このような形態を続けてもらいたい。
- 節目、節目にスライド中、赤字でまとめをすることも、繰り返し強調することも、有効と思いました。また、項目のまとめに症例演習も加えられており、さらに講義を引き締めているように感じられました。
- 初めのスライドで、今後の授業の内容紹介も良かったですが、SB0も併記、説明すると良かったと思いました。
- 3年生を対象に輸液療法・薬物療法について包括的にわかりやすく述べた講義です。スライドと資料を併用し、必ず覚えることを赤字で示し、講義でも強調していました。症例演習を2題提示しており、理解促進に役立てていました。しかしながら全体的には教師主体の一方指向性の講義で、次々と進行して行くため、どこまで学生がついて来ているかに関しては疑問があります。内容は初学者というより薬剤師レベルと思います。もう少しスライドの枚数を減らしてもよいのではないかと思いました。
- テンポよく、面白い講義であきない
- 学生へのアイコンタクトが少ないが質問などあって緊張感もある
- スライドは図が多くてわかりやすい
- 全体の流れも適切で、例題や演習もあって参加型の授業に近い
- 残念なのは学生が少なくて緊張感が乏しいこと：狭い教室でinteractiveにするのもよい：黒板

授業でもよい

- 必須科目にして学生にもっと聞いてもらいたい科目： カリキュラム委員会は何をかんがえていいのか
- 全部ビデオにとってeラーニングできるようにしてほしい。MYCASTで全学生、全教員に見えるようにしてほしい。
- 内容的には基本すぎて、もっと最先端の基礎的内容もいれるとなおよい
- 輸液に関する講義でしたが、とてもわかりやすく講義されていたと思いました。私も現場の経験はないのでとても勉強になりましたし、興味深く拝聴いたしました。
- いろいろな科目をつなげて学んで欲しいという気持ちは私も同感です。講義中に今話している内容はこんな科目とつながっているということも具体的にお話しいただけると学生さんも実感が湧くのではないかと思いました。
- 学生さんにこれはまだ習っていないかなと、時々意識されていましたが、学生にとっては何度も説明されても良いこともあると思うので、（予習、復習になる）気にせず、講義を進める上で必要な内容は説明していただけだと良いかなと思いました。
- 話すスピードがちょうど良く、症例とともに考えさせる内容で勉強になった。
- 内容も実務に即していて、医療現場で役に立つと思う。
- ただ、現場を知らない学生がどれだけ理解できたかだろうか？とも思いました。
- 学生に質問を投げかけながら、講義を進めている点は、とても良いと思いました。講義自体も聞き取りやすい口調で、適切なスピードで進み、学生も講義に集中しやすいと思います。講義中は、立ち位置にもよるのかもしれません、学生に視線を向け、反応を確認する状況があると、よりスムーズに講義が進むかと思いました。今後、講義を行う際に、参考にさせていただきます。どうもありがとうございました。
- 栄養、特に輸液に関する講義を受けたことがなかったので、導入編として大変勉強になりました。831（やさい）、忘れないようにします。
- 症例を提示して、実際に計算させてみることで、記憶として定着すると思いました。
- 3年生の前期ですと、薬理学3、薬物治療学1と2をやっている最中かと思います。一応生理学2年生で終わっているので、NaとKの分布は習っているはずですが、忘れてしまっているかもしれません。かなり基本的なことなので、覚えておいてほしいのですね。
- 内容が豊富で、実臨床に基づくもので大変勉強になりました。
- また、講義中に症例演習を組み入れていたのも工夫されていた点と思います。
- 一回の講義内容が非常に多岐にわたるので、学生がどの程度理解できたかが少し心配です。講義後復習をしてもらってから症例に取り組んでもらうのも、学生の理解度を把握するうえでは良いかもしれません。
- 板書が見やすくて理解しやすいです。
- スライドはとても見やすかったです。
- 情報量がとても多いので、重要ポイントがより分かりやすいと復習するときに良いと感じました。

- 板書がしっかりとあることから、難しい内容であってもノートを書きながら受講することで、集中して講義に取り組めると思いました。先生が動き回っておられ、そのことで学生の眠気防止になっているような気がします（自分は動きが少ないので、学生はぼんやりしてしまうようです）。参考になりました。ありがとうございました。
- スライドが見やすく、まとめも多く、学生が復習しやすいと思いました。途中、先生の独り言が緊張感をほぐしてくれる気がしましたが、中には気になってしまふ学生もいるかもしれません。
- 実際の輸液治療の例や問題があり、学生も興味を持って講義を聞くことが出来たと思います。
- 講義用スライドもシンプルでわかりやすいご講義だと思いました。臨床現場の栄養補給に関する実例を挙げてのご講義は、これから臨床現場で実習を行う学生にとって必要な知識だと感じました。
- 大変興味深く拝聴しました。3年次の学生さん達の知識は曖昧なので、実務の現場を彷彿とさせる説明はわかりやすく、印象にも残ると思うので大変有効だと思いました。一方で、薬理学は2年次までに終了し、薬物治療学Ⅰ・Ⅱが3年前期、後期には薬物治療学3と4が並行して進んでいますので、ACE阻害剤を始めとする代表的な薬物を知らないはずはありません。もっと高度な知識を要求して良いと思います。公式なども難しいからまだ覚えなくて良い、と甘やかさず、この期に覚えようという姿勢で、学生の積極性を育てる方が良いと思いました。
- 勉強の仕方を具体的に説明されていることが効果的だと感じました。縦割りされている科目間のつながりを学生に意識させるうえで良いと思いました。一方的に講義をするのではなく、時折学生に質問を投げかけることで学生に緊張感が生まれ、集中して聴ける環境にあると感じました。
- 教卓の上に置かれている有線マイクは教卓から降ろした方が良いと感じました。学生がスライドを見やすくなると思いました。
- アニメーションの利用が有効で説明がわかりやすいと感じました。（輸液の種類によって体内のどこに水分が補充されるかについて）
- 説明（講義）した内容について、演習形式で症例への活用方法を説明することで、知識のアウトプットの仕方を学生に有效地に意識させていると感じました。臨床応用を学生に感じてもらうためにも良いと感じました。
- 学生が記憶すべきことの優先順位を明示しており、説明にメリハリがあると感じました。
- 生化学・病態生理学・薬理学から成り立つ臨床栄養学、臨床現場から着任された先生の講義興味深く聴講できた。しかし専門が異なることよりか計算問題になるとついていけなかった。学生はどこまで理解しているのであろうか？スライドは全般的に見やすかった（一部小さな字もあったが学生はレジュメを持っているから良し）。大事なポイントを色分けしたりすればなお見やすくなると思われる。ただ、安先生がスクリーンから離れすぎているように感じた。スクリーンの近くにいれば学生の視野に入りより講義内容に説得力がつくことだろう。なぜ、輸液が必要か？これをはじめに出す方が理解しやすいのではないか？輸液療法とはどんなもの？現場の先生ならではのお話を期待した。すべての話に病態をマッチさせると学生の興味もさらになすことだろう。なぜ必要なのか？どんな患者さんに使われるのか？臨床検査値の話も出て臨床現場感があった。3年生に臨床演習問題は良いと思えた。考える時間を与えるのも良いが、その間学生は

本当に考えているのだろうか？また、計算問題では正解を式を示すと尚良いか。また折角だから学生がどこまで理解しているか確認すればよいと思った。高Naでは基本的に5%ブドウ糖と講義しているが、なぜと疑問に持つ学生もいるかと思った。現代の医学において高齢者に胃ろうを施す位置づけはどうでしょうか？次回の糖尿病をはじめとする個々の疾患における栄養療法の重要性が期待される。3年の選択授業、受講者はどのくらいいるのだろう。興味深い分野必修にしたい感がある。

- 板書が多く大変そうだが、見やすく工夫されていると感じました。途中、プリントに点数を入れ回収していたが、どのように活用しているのか興味を持ちました。
- 実践も踏まえた内容豊富な授業で、薬剤師の現場に出る学生に取って大変有用な知識を得ることができますと思いました。しかし、ご自身でも授業内で何度かおっしゃられていたように、すでに他授業で習ったかが分からぬために前提にして参考してよいか不明な内容があり、そこが改善されれば、学生が自分が何を習っているのか把握しやすくなるのではないかと感じました。
- 実際の症例が例示されていて、患者さんの状態をイメージしやすく、また、話し方にも親しみ感があると感じられました。少人数の講義であったので、もし、内容的に可能であれば、双向型の形態がとれると、さらに、学生さんの興味を引き出せるのではないかとも感じました。
- わかりやすいスライドです。また、新しい知見を取り入れて講義されており、現実味のある、いかにも臨床系教員の講義でした。人数が少ないからでしょうか、設問を考えさせたりしているので、うまく時間を使ってその時間を確保できています。参考になりました。
- 講義の初めに各科目間のつながりを意識して勉強するようにうながすのはとてもいいと思います。オムニバスで講義を行う場合、前の先生の講義の内容を把握して連携することはとても重要であると思いました。学生のレスポンスを確認しながら講義をするのはとても重要だし、いいと思うのですが、それに反応しない学生が残念です。学生は、ぼーっと聞いているとわかった気になっているので、途中での問題演習による確認演習はとてもいいと思いました。わかりやすいよう例を挙げながら説明するのはわかりやすいですが、後半専門領域になってくると、若干学生がわかっていない単語等もふくまれるのでは？これは、自分でもそうなので、自分が専門とする領域こそ、学生がわからないものとして説明しなければいけないと感じました。
- スライドも絵や写真が多く分かりやすい。また考えさせながら授業を進め、途中途中で授業で教えたことを使った問題を解かせるため理解度が高くなり良いと思った。実際のこういう時にこうだからこうすると順を追って説明しているので分かりやすかった。患者さんの写真を見せるときに少しグロテスクなものなので、見せる前に一言かけ、学生に配慮した方が良いと思った。（見せることは全然悪くない）
- 語り口が優しい感じで好印象でした。解説も分りやすく、途中で質問や演習を入れて作業させているのも効果的でよかったです。学生からみると教卓上のマイクスタンドがスクリーンに被っていて邪魔だと思いますので、退かした方がよいと思います。

日時：2019/12/16 4限目

科目：数学II

意見・感想

- 板書で丁寧にやられているのが良いと思います。
- 黒板を4分割、あるいは3分割にして、流れをわかりやすく、エネルギーお話しされています。この黒板の縦線を記載して分割するのは、自分も黒板をよく使用するのですが、学生から順番が判り難い、と言われたことがあるので、参考にさせて頂きます。
- 途中で集めた自己採点テスト？は、返却されるのでしょうか。自己採点、点数化という形式をとると学生は敏感になり過ぎる場合があるので、演習という形式が良いかもしれません。
- 黒板をつかって動き回ってテンポよく進む講義なのであるが、わかりにくい
- 具体的なイメージがわくような図をスライドで示して、そこに書き込んでいくような授業がわかりやすい。
- 内容は当たり前のこと引き延ばして黒板をつかってゆっくりせつめいしているだけで、イメージがわかない。全体像がわかるようなスライドをまず示してから書き込む授業がよい
- 演習をするなら学生にまえで黒板にやらしてもよい：しないのならすらいでテンポよくせつめいしてほしい：黒板ではまどろっこしい：学生も飽きている
- 黒板拭きはクリーナーできれいにしてからふいてほしい：字が大きすぎて書く時間がかかりすぎ
- 学生を馬鹿にしたようなしゃべり方が残念：黒板を使うとえらそうになってしまふので注意：学生も質問しにくい雰囲気
- エピソードがないで講師に感情移入ができない：冷たい印象：笑いもない
- 宿題の解説、自己採点の方法、配分時間など参考になりました。板書の分量、速度、字の大きさ、区分けの仕方など分かりやすいと思いました。
- 配布プリントがあるようですが、重要概念、用語などはプリントと同じことを板書しているのでしょうか？
- 講義の内容上仕方ないかもしれません、淡々としきりにしている印象を受けましたので、もう少しメリハリを付けた方が良いかと感じました。また、教壇をうろうろ歩くのがとても気になりました。説明が一区切りついたところで「質問ある人はいますか？」と学生に問いかけるのは、良い点かと思います。ただ、実際にはその場で質問できる学生は少ないと思いますので、学生が気軽に質問できるような場を設けた方が良いと思います。
- 薬学を学ぶ上で、数学がどのように利用されているか（薬品の血中濃度など）について説明されていたのは非常に良いと思います。
- 宿題の解説をしっかりしている点は良いと思います。
- 授業の回が定義や一般式を示す回で次回以降に実際に計算をするのはわかりますが、定義や一般式で示すような数学が苦手な学生が多いので、授業中にも簡単な例題を1問で良いので学生に解かしてみるのも良いかと思います。

- 収録の授業とは関係ありませんが、もし可能ならば、高学年の薬学で解くような計算とリンクさせていただけだと面白いかと思います（試験で計算式は合っているにもかかわらず、計算を解けない学生がかなりいるため）。
- 板書の際に、黒板を3つか4つに区切ると学生が見やすいなと思いました。取り入れてみます。
- とても分かりやすい講義だと思いました。学生も皆居眠りなどせずに真剣に取り組んでいて、質の高い講義だと感じました。
- 大変エネルギーッシュな授業で感銘を受けました。
- 板書の字も綺麗で、学生さん達は集中して書き写していました。
- 数式は、解釈だけでなく、書きながら読み上げてあげると、書き写しながら思考できるのかな、と思いました。ラストの太鼓の振動を数式にするのは、「フチ」においてだという数学的発想が衝撃でした。
- 歯切れのよい講義で、大変に結構と思います。黒板を区切って使うのはまねてもよいと思いました。
- 大変わかりやすい授業でした。
- 微分方程式に限りませんが、薬学や研究との関連性について具体的に言及されると、あとになんでも必要な考え方なのだと思うかもしれません。
- 参考になったこと。
①ステップごとにわけてわかりやすく説明し、それぞれの区切りごとに、学生に理解できているか、質問はあるかなど確認している。
②黒板の使い方ですが、字の大きさが後ろからでも読みやすいこと。いくつかに分割して左から順番に説明を進め、次の説明に移った際も前の記述が残っているので、ノートを取りやすい。
- 板書だけの講義は久々です。講義のペースとしては参考になります。教科書、配布資料などあるのでしょうか。あれば理解の手助けになります。内容は理解できませんでした。理解できぬまま、講義を受けることがいかに苦痛か、実感しました。学生が理解できている知識に合わせていかに上乗せするかが重要だと思いました。
- 教卓を移動しながら教室全体を引き付けながら講義している。学生の理解度だけでなく態度等も観察しながらすすめている。
- 板書が見やすくて、良いと思います。
- 時折質問を求めていますが、授業中質問ができる学生は極めて少なく、また、質問がないからと言って、全員が理解したわけではないので注意が必要です。
- 例をふんだんに使って分かりやすい解説になっていると思います。
- 黒板の使い方がとても上手だと感じました。少しウロウロと動き回っているのが気になりましたが、一ヶ所に留まっていると板書がみえない学生もいるので、立ち位置を変える方がよさそうだと理解しました。
- 少しグラフを描いていただけだとイメージしやすいだろうと思いました。
- 板書が見やすくて理解しやすいです。

日時：2018/11/16 2限目

科目：薬学と社会I

意見・感想

- 講義中に学生の様子を確認しながら行っても良いかと思いました。
- 教科書の内容をスライドに作成し、教科書とともに投影する方法は参考になりました。
- 教科書に沿って行う授業では有効と感じました。
- 教科書へのマーカーペンなどが重要ポイントらしく生徒への意識付けにも役立つそうです。
- サブスクリーンを利用して教科書とスライドを上手く用いていた。購入した教科書もフル活用し、さらに重要、最低限覚えるところ、などをスライドに纏めているので学生にとっては判りやすい。
- 合間々でもう少し学生の方を見ながら講義されるとより伝わるようthoughtいました。
- 説明されているスピードも十分にゆっくりで、親しみやすい図もあり、非常にわかりやすい授業でした。特に改善すべき点など無いように思います。
- お話が穏やかでわかりやすく、落ち着いて受講できると感じました。
- ひとつの画面には教科書を、もうひとつにはスライドを提示していらっしゃるので、学生は理解がしやすいと思いました。
- 参考になりました。ありがとうございました。
- 情報量が多い内容を分かりやすく説明されていたと思います。
- サブモニターで、資料を写されていると思うのですが、若干画面を行ったり来たりすることで理解しづらくなるような印象もあって、もう少し移動が少ないほうが分かるのかなと思いました。
- 授業内容の性質上文字での解説が多いのですが、現実社会をイメージしやすくなる写真などがあるといいのかなと思います。
- 薬事関連法規について、勉強になりました。
- 法律の話は難しく、イメージしにくい部分もあるので、実際の写真や図表などがあると、学生の理解の助けになるのではないかと思いました。教科書を活用されているのが良かったと思います。
- スライド2つ活用するのは広がりがあってよい。左スライドも指示ライト示すのが動きがあってよい。
- 学生とのアイコンタクトがない。
- スライドを見なくてもしゃべれるように準備するべき。
- 話が単調で強調するところはくりかえす。
- 逸話がない。書いてあることのみ。教科書の図でなく字をスライドに移す必要はない。スライドも図が少なくイメージに残りにくい。
- 全体の流れがわかりにくい：始めにアウトラインをしゃべってから各論に。
- 表情が乏しい。笑ったり困った顔をしたりしてほしい。
- メインスクリーンにスライドを、サブスクリーンに教科書を映すのは良いと思います。
- 学生の方を時々見ながら講義すると良いと思います。

- 最初に、1つの科目ごとではなく関連科目を横断的に理解するよう促している点は、非常に重要なと思いました。また、学生の反応を確認しながら、レベルに合わせて言葉を選んで説明されている点は、見習っていきたいと思います。
- サブスライドに教科書を写すことはしたことがなかったので、今後併用したいと思います。また、サブスライドとメインスライドを切り替えてらした点も、参考にしたいです。情報量が多いときに有効だと思いました。
- 静かですが、はっきりした口調での講義のため、学生さん達も集中を切らさずに授業を受けることができていると思います。又、教科書と先生が纏められたスライドとの対比を求められているので、緊張が途切れないという効果があるようです。中央のまとめスライドをPadや携帯で写真に撮っている学生が散見されます。レジメを配布しない意図が学生の集中を促す（且つ出席をも促す）ものであるのであれば、効果を発揮していると言えます。参考にしたいと思います。
- スライドの文字がやや小さいのですが、資料が配布されていて、そこでの文字が読みやすい大きさであるならば、問題にはなりません。
- テキストのどこに説明が記載されているか、書画カメラで示すのは良い方法であると思います。
- 単調に感じるため学生は眠たいのでは。学生の集中力を維持するためにも喋り方にも抑揚をつけるとか、みじかな話題を加えるとかの工夫をすると良いと思います。
- 本学の学生にとって知っておかなければならぬ情報が非常に豊富な授業だった。何らかの薬に関する仕事に就いたときに、この授業の内容をきちんと勉強して覚えておけば、その知識が必ず役に立つだろう。ただ、情報が豊富なだけに、学生の理解度に合わせて情報の強弱をつけた方がよいようにも感じられた。こうした内容を把握するのが得意な学生は、丸ごと覚えてしまえばよいが（そしてそれを目指すべきだが）、そうでない学生が（まずは）キーワード程度で内容を覚えて勉強し始めるためには、重要度の段階に合わせて赤字や太字で提示するのもよいように感じた。現在のスライドでは、結局赤字で提示する個所が多く（もちろんすべて重要なだろうが）、情報の強弱が必ずしもわかりやすいとは言えないようだ。
- よく整理された提示資料であると思いますが、文章の羅列が多すぎるように感じました。話を聞くというよりも、どうしても文章を読んでしまいます。そこが改善できれば、さらに集中して講義に臨めると思います。
- 分かりやすい講義ですが、もう少し学生の方を見てあげた方がもっとよく伝わると思います。
- 大変興味深い領域です。今回は法令の条文を逐一解説するという、私にとっては困難なお仕事のように思われます。廣瀬先生は明確に、歯切れ良く、分かり易く、行政の仕組みを説明なさる。その誠実さが学生に伝わり、学びのモチベーションを維持するためのエネルギーになるのであります。耳に心地よい声の質をお持ちですから、机上の資料に目を落としつつ、耳で教員の説明を追うタイプの参加でも、それが快適な作業であることを幾多の経験が語っています。薬事行政や政策を理解した後に、総括して、学生の”世界観”に何が付け加えられることになったのか、個々に尋ねるのもまた楽しいことに思えます。
- 教科書とパワーポイントを併用しており、理解しやすいと思った。しかし、分かりやすい反面、学生が受け身になりすぎて眠くなったり、あとで勉強すればいいやになってしまったと思った。

- スクリーンに顔を向けていため、学生を見ながらやった方が良いと思った。
- スライドが見やすかった
- 最初に授業の内容の要約を言ってくれるので項目ごとに集中して聴くことができた
- 話す速度が適切であった
- スライドが見やすい。
- 必要に応じてスライド画面に書き込みを加えると、より理解しやすくなると思います。
- スライドが大変見やすく、学生は頭の整理がしやすいと感じました。
- 授業の中で演習もあり、習ったことをすぐに復習することで学生の理解が高まると思いました。参考になりました。ありがとうございました。
- 教科書とスライドを併せて投影しており、丁寧に講義されていると思います。このコマが特にそうなのかもしれません、規則等の説明が多くならざるを得ないと思いますので、実際に関わっているヒト（薬剤師、MA、MR、厚労省官僚、PMDA等々）にも触れるような、キャリア教育も兼ねられるとベターかもしれません。
- スライドが見やすく、そのため、理解しやすかった。
- 非常に構成がしっかりとしていて、分かりやすいと思いました。
- わかりやすい授業でした。学生に質問していたので、一方的ではなく双方向の授業となり、学生も真剣に聞くのではないかと思いました。
- メイン画面に自分のスライドを、サブ画面に教科書を、提示しているのはわかりやすいかと思った。両画面を使用しているからかもしれないが、前方の席の学生には暗いのかも、と感じた。もう少し明るくても講義ができるなら、それが良いかも。授業は、さすがにスライドと教科書がリンクしているので、良いスピードと中味だと思えた。
- 私の研究室の卒研生で、現在、標準実習中の学生（5年生）の一人が、「薬学と社会」の授業がよかったですと話していました。今回動画を見て、誠実な授業ぶりに納得しました。
- 分かりやすい講義だと思いますが、喋っている学生が目に付きます。注意をなさってはいかがでしょうか。
- 教科書を投影して説明しているのはわかりやすいと思いました。
- 法律関係という学生には眠くなってしまいそうな内容をよく工夫された講義で、一部写された学生も比較的集中して受講していました。
- 教科書とスライドを対比させていましたが、講義の流れもスムーズでまた学生が復習するときに勉強しやすいと思いました。私の講義でもぜひ取り入れたいと思います。
- 法規の講義は単調になるのではないかと思って拝見しましたが、要点を纏めたスライドと解説で分かりやすく講義されていると思います。教科書の該当箇所を随時提示しているところ、章の冒頭に「（最低限）覚えてほしいこと」を配置しているなど、自身の講義でも取り入れたいと思えるものでした。
- まだ慣れていないと思いますので、これから改善されていくことが期待されます。教えている内容が、頭に入れば、読み上げているような印象が弱まるというか、解説しているという方向になると思います。科目の性質上、難しいかもしれません、学生のリアクションというか、理解さ

れているかを、確認するような間合いが必要かと思います。法規が守られなかつた実例などを紹介して、印象を深めてはどうでしょうか。メインのスライドと、プロジェクターを利用されていますが、プロジェクターで示している内容の効果が、あまり感じられません。言葉で、教科書？のページを伝えれば済むのではという印象を受けました。

- 教科書との併写が復習に役立ちそう。（教科書のマーカーは加筆してるのでしょうか？）「（最低限）覚えてほしいこと」「重要」といったポイントの強調がうまいと思いました。気になった点としては、聴衆をほとんど見ていない点。出入りする学生も気になりました。スライドをいちいち写真撮っている学生がいますが、ハンドアウトとかは配布していないのでしょうか？具体例としての、写真（医薬品表示とかだと、実物の包装などのもの）があれば、イメージがわいてよいかと。総じて、声も活舌が良く聞き取りやすく、ボリュームがあるのにうつっている学生が頑張って講義に参加しているのが印象的でした。
- 解説自体はわかりやすいと思います。pptデータの中身がほぼ文字だけに近いので、飽きられやすい感じがします。医薬品のパッケージなどの写真を入れたりして、具体的な例を入れるとよいと思います。レーザーポインタをあまり激しく動かさない方がよいと思います。一点を指すあるいはゆっくり囲むように動かす位の方がよいと思いました。
- 大変見やすいスライドが印象的でした。サブスライドに教科書を映しながら、スライドとの関連性をご説明をされている点が参考になりました。
- 毒薬や劇薬の説明、医薬品の封については、実際の写真を見せながらご説明されると、印象に残りやすいのかと感じました。
- 講義中はスクリーンばかり見るのだけでなく、学生の反応も見ながら進めていくと良いと思いました。
- 臨床の症例を提示してわかりやすい説明をしていただきました、ありがとうございます。
- 聞き取りやすい講義ですが、ppt画面に顔を向けた状態よりも、学生の方を見て、反応を確かめながら進めると、学生が理解しているか、分かりにくいかの様子を把握し易いと思います。
- どれも重要ですが、文字が多いので、もう少し整理されるとポイントがわかりやすいと思います。
- ところどころに症例を使用して講義をすることは、現実味を帶びて学生に伝わるので、学生も講義の目標を見失わずに勉強できるのでよいと思います。
- 内容がかなり広範囲となり講義も学生に理解させるのが大変だが、スライドと別資料を展開しながら説明することで分かりやすい講義となっている。

2019 年度シラバス研修会

<h3>令和元年度 FD 研修会</h3> <p>～ カリキュラム・ポリシーとシラバス作成時の留意点 ～</p> <p>令和元年12月20日（金） 於：マルチメディア教室</p>	<h4>FD 研修会の内容</h4> <ul style="list-style-type: none">▶ カリキュラム・ポリシー▶ シラバス作成時の留意点
---	--

<h4>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施の方針)</h4> <p>【 薬 学 科 の 教 育 目 標 】</p> <ul style="list-style-type: none">■ 「薬剤師の社会的使命を強く自覚した薬剤師 及び医療系薬学研究者の養成」■ 「薬物治療の責任を担える薬剤師の養成」■ 「医療人としてのコミュニケーション能力を備えた人材の育成」■ 「医療全体を社会的視点で思考することのできる人材の育成」	<h4>【 薬学科の教育課程 】</h4> <ul style="list-style-type: none">◆ 「薬学教育モデル・コアカリキュラム」「実務実習モデル・コアカリキュラム」専門的知識・技能・態度が身につけられる本学独自のカリキュラム◆ 1,2年次の基礎教育 3年次以降の4年間の専門教育
--	--

<h4>薬学科 1、2年次の基礎教育 (薬剤師早期教育カリキュラム)</h4> <ul style="list-style-type: none">◆ 大学への導入教育◆ 薬学基礎科目の履修◆ 人間形成に必要な教養科目◆ 早期体験学習	<h4>薬学科 3、4年次の専門教育</h4> <ul style="list-style-type: none">◆ 医療系専門科目を中心に履修◆ 事前実務実習◆ 卒業研究
--	---

薬学科 5、6年次の専門教育

- ◆ 薬学実務実習
- ◆ 本学独自の7つのコース実習・演習
- ◆ コース特論・演習
- ◆ 総合医療薬学演習

カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施の方針)

【 生命創薬科学科 の 教 育 目 標 】

- 「生命科学分野と創薬化学分野の基礎学力」
- 「創薬科学に関わるために必要な医療薬学的素養」
- 「幅広い学問分野の素養を身につけ、強い探究心と洞察力を養う」
- 「論理的思考に基づく知識の応用の仕方を学び、発想力と独創性を涵養する。」

【 生命創薬科学科の教育課程 】

- ◆ 「少人数制の行動型授業」により高いコミュニケーション能力を養う
- ◆ 多種多彩な研究体験により論理的思考力を伸ばす
- ◆ 生命科学や創薬研究を基盤にした連動性に優れた本学独自カリキュラム
- ◆ 大学院進学を目指す学生にも対応

生命創薬科学科 1、2年次の基礎教育

- ◆ 大学への導入教育
- ◆ 人間形成に必要な教養科目
- ◆ 生命科学と創薬化学の基礎科目の履修
- ◆ 少人数制の能動的演習科目

生命創薬科学科 3年次の専門教育

- ◆ 生命科学と創薬化学の専門科目、医療・衛生科目
- ◆ 生物系研究室、化学系研究室における長期総合実習・演習

生命創薬科学科 4年次の専門教育

- ◆ 総合力（探求心、論理的思考、洞察力、及び語学力）を養うカリキュラム編成

★ ディプロマ・ポリシー
(学位授与方針)
★ カリキュラム・ポリシー
(教育課程の編成・実施の方針)
★ アドミッション・ポリシー
(入学者受入れ方針)
< 3つのポリシー 再確認 >

令和2年度 シラバス作成時の留意点

シラバス (与学生との契約書)

- 授業内容、授業形態、予習・復習方法、レポート・試験等のフィードバック、成績評価方法・基準などが盛り込まれ、学習効果を高める
- 講義内容等を示す最強の資料

【1】 Webシステムへのログイン

→ パスワードについて

ログイン

①ユーザーID
My-PortへのログインID
②パスワード
「 meiyaku 」
&
「教員番号（4ケタ）」
(例：教員番号が「 1 」の場合
→ meiyaku0001)

【2】 薬学科の全学年が新カリキュラム

6年生科目にSBOコードを記載する
SBOコード表は、My-Portから
ファイルキャビネット→各種資料/教務課/

【参考】

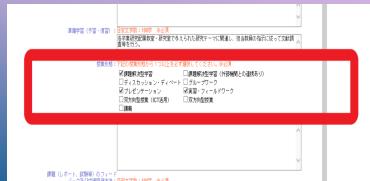
「GIO（一般目標） “General Instructional Objective”」
期待される成果を総括的に示したもの

「SBO（行動（到達）目標） “Specific Behavioral Objectives”」
※ SBOs は、行動（到達）目標群（項目）
知識・技能・態度において、具体的な到達点を記述したもの

SBO をすべて達成 → GIO 達成

学生はシラバスで関係するSBOを知ることにより、
その科目における学修のポイントをつかむことになる

【3】 授業形態の追加（新規・必須）



【4】 実務経験のある教員による授業科目

(文部科学省「高等教育段階の教育費負担軽減新制度」)

シラバスとホームページで公開

既に当該条件を満たしているため、
今年度と同じ内容で公開・掲載予定

(ご退官される教員がご担当されている科目については、修正します)

【5】 その他

- ・授業担当教員をもう一度確認
- ・できれば・・1ページ以内に！

▶本日説明した内容は、

「シラバスWeb入稿システム マニュアル」
に記載されています

▶12月9日付 シラバス作成依頼メール
またはWeb入稿システムより入手

▶※ 不明な点等 → 教務課にご連絡下さい

シラバスWeb入稿システムの利用は

令和2年1月16日（木）まで

ご協力の程 よろしくお願ひ致します

ご清聴ありがとうございました

2019 年度 FD 活動報告書

編集 2019 年度明治薬科大学 FD 委員会
中館 和彦 浦辺宏明 川北晃司 兎川忠靖 山崎紀子
佐野 和美 高野 麻子 飯田 克巳
宮崎 秀信 山本 一真 一ノ瀬 裕之
発行日 2020 年 4 月 20 日 発行
発行 明治薬科大学
〒204-8588 東京都清瀬市野塩 2-522-1
TEL 042-495-8611 (代表)